

平成 26 年 1 月度県内産業景気動向調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員 60 人に、本会が新たに選んだ 20 人を加えた 80 人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

県内の「業界の景況（前年同月との比較）」は、良いと感じている人が、12月期より増加しており、全体的に改善傾向にある。受注量大幅増加の業種もあるが、同一業種でも地域によって差が出ている。

1月期の景気の回復感は、食料品製造業、一般機器や輸送機器の一部の報告によると、「業績が良かった」や「引き続き好調を維持」との報告もあり、以前よりも景気が上向きの報告が増えている。一方で、繊維業、小売業で苦戦が続いているとの報告である。石工品製造業と左官業から、依然として職人不足等により「受注工事が遅れている」との報告があり、人材確保が喫緊の課題となっている。木材・木製品や石工品製造業、卸売業、自動車整備業より「消費税増税前の駆け込み需要が発生している」との報告がある一方で、「駆け込み需要は感じられない」、「消費税増税後の反動を懸念している」との報告も多い。

景気回復状況は引き続きまだら模様であり、今後も、状況を注視していく必要がある。

山口県の主要指標 DI 値（平成 26 年 1 月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、好転：17.5% 悪化：21.3% DI 値：▲3.8% ポイント

売上高（〈増加〉－〈減少〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、増加：26.3% 減少：28.8% DI 値：▲2.5% ポイント








収益状況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI 値〉）


前年同月比は、好転：12.5% 悪化：31.3% DI 値：▲18.8% ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（平成 26 年 1 月末現在）

 30 以上	 30 未満～ 10 以上	 10 未満～ ▲10 以上	 ▲10 未満～ ▲29 以上	 ▲30 以下
--	--	---	--	---

食料品	繊維業	木材・木製品	印刷	窯業・土石製品	一般機器	輸送機器	全製造業
▲42.9	▲25.0	0.0	▲50.0	0.0	33.3	▲50.0	▲9.0
							

卸売業	小売業	商店街	サービス業	建設業	運輸業	全非製造業
20.0	▲22.2	▲50.0	▲25.0	40.0	28.6	▲0.0
						

全体
▲3.8


特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	正月は好天に恵まれ、休暇も長く、駅・空港・専門店ともに好調であった。特に駅売店は昨年以上に集客が良かった。	パン・菓子製造業
	1月売上はプラス3.7%と前年同月を超えた。全般に寒さの厳しい日が多く、後半が伸び悩んだが、お正月を含む前半の業績が良かった。2月より、「毎月第二日曜日はお魚の日」の定期イベントをテスト運用することとし、試行改良の後、新年度4月より本格実施の予定である。観光庁の「世界に通用する究極のお土産9選」の効果で、三越・東急などからの対象商品の受注が大幅に増加し、製造が追いつかない状況が続いている。	水産食料品製造業 萩市
	原材料等の値上げに伴い、一部製品の値上げを検討するが、販売面が不安なため、値上げが出来ないでいる。消費税増税後の動向が読めず、不安に思っている。	水産食料品製造業 下関市
	円安の為、輸入原料が高騰している。	水産食料品製造業 下関市
	昨年の豪雨災害に伴い、地域の中では2～3年程度、全く営農できない者も出てきている。早急な復旧対策が求められる。現地では、組合員自らが復旧作業に取り組んでいる事例もあり、支援施策が求められる。	精穀・製粉業
繊維工業	業界全体の非常に厳しい業況に変化はない。消費が伸びないの一言につきる状況で、受注量も厳しい状況。資材関係の値上がりもコストを圧迫し利益を下げている。	下着類製造業
	チャイナリスクにより他国へのシフトが進んでおり、海外の状況の問い合わせや、引き合いの件数は増加しているが、受注には結びついていない。	外衣・シャツ製造業 山口市
	現在順調に仕事が入っているが、消費税増税後が心配。	外衣・シャツ製造業 下関市
木材・木製品	木材価格の上昇が続いている。新設住宅着工戸数も右肩上がりでも推移している。消費税増税後の反動を懸念している。	製材業・木製品製造業 山口市
	消費税増税前の駆け込み需要等、若干引き合いも増えているが、景気回復にはまだ時間がかかりそう。	製材業・木製品製造業 下関市
印刷	大手企業は円安で増収の様相であるが、地方、中小企業は逆に円安によるコストアップ及び4月からの消費税増税により、これまで以上に苦境に立たされると予想される。業界の状況は業態からして良くは	印刷 下関市

	ならない。勝ち残れば活路は拓ける。	
	月末になり多少仕事は増えたが、価格が安いので売上高は伸びない。	印刷 山口市
窯業・土石製品	対前年同月比は、骨材112%、路盤材89%、再生材96%、全体では104%の出荷量となっている。	砕石製造業
	出荷量は、前月比94%に減少したものの、前年同月比では103%の増加となっている。本年度出荷量の見込みは、前年比で88%程度と見込んでいたが、4～12月計で前年比103%であり、前年度並みの出荷量は確保できそうである。現時点のセメント・骨材等の資材調達で、特に問題は生じておらず、セメントなど原材料値上げの動きがあるが、生コン価格も総じて安定している。	生コンクリート製造業
	中国産石材は、過去日本国内で85%の流通量を占めていたが、最近の政治問題で消費者離れが進み、また、国・県等の方針で国産石材の利用を推進していることもあって、流通量が減っている。中国産の取扱量が多い事業者は、受注量が減り、国産の取扱量が多い事業者は、消費税増税前の駆込み需要もあって、忙しくしている。人手不足が続いており、受注工事の遅れも顕著となっている。	石工品製造業
一般機器	現在の中小企業は「下請け単価」をリーマンショック前の単価まで回復させる価格交渉の正念場と考える。また、消費税増税の影響や、円安による電気代の値上げ等を慎重に見守る必要がある。	一般機械器具製造業 周南市
	鉄骨構造物製造の組合員は、下関・下松・岩国の大型小売店向けの設備投資で引き続き好調。自動車関連の組合員は1月に入ってから受注が増加傾向である。設備工事の組合員は、大手企業の設備投資が一段落したため、前年同月比では受注減となっている。雇用は、退職者の補充に留まった。全般的には、景気の良い企業と悪い企業でバラつきがある。	一般機械器具製造業 防府市
	取引先企業からは前向きな話が出てきている。外国人実習生の受入数も増加傾向にある。	一般機械器具製造業 宇部市
	金型の生産状況は、昨年12月の受注の低迷で1月の設備操業度はやや低下している。商談案件は多く有るが、すぐの受注に結びつかず厳しい状況。2月以降は、まとまった受注が決まる予定で忙しくはなりそうである。海外向け「リピート金型」は、昨年に引き続き予定が入っている。その他、国内向けは特殊樹脂金型が多い様子。国内の製造業の大手の景気は良さそうだが、中小企業はまだ厳しい状況が続くようで、特に金型は価格競争が激しく、低価格・	特殊産業用機械製造業

	<p>短納期・高品質が問われ、これに打ち勝たないと仕事は取れない状況で、とても厳しい。成形製品は、受注が低迷しているものの、新規立ち上げの案件が少しずつ動き始め、受注増に期待しているが、先行き不透明な状況はしばらく続きそうである。</p>	
	<p>輸送機部門は低迷しており、来期まで浮上しない状況で、生産高も低調で推移している。精密加工部門は、一部の組合員ではあるが、生産量は大きく伸びており、春先までは好調を維持できる見込み。</p>	鉄道車両・同部品製造業
輸送機器	<p>マツダ関連プラスチック製品や、制服関係で、消費税の駆け込みに関わる発注が増加してきた模様。団地内にある従業員住宅も、塗装工事することが決定している。</p>	各種商品小売業 防府市
卸売業	<p>売上高は若干の増加傾向だが、燃料等の高騰で収益減。</p>	各種商品小売業 山口市
	<p>地方の中小企業の卸売業関係は景気回復に至っておらず、前年並みで推移している。</p>	各種商品小売業 防府市
	<p>年明けから天然魚が豊漁となり養殖魚も値下がり、販売量が増えた。</p>	生鮮・魚介卸売業
	<p>年末商戦が終わり、例年のことであるが、1月の売上は今一つである。2月・3月の消費税増税前の駆け込み需要に期待をしているが、化粧品業界も経営者の高齢化が進み、廃業が目立つようになっている。</p>	化粧品小売業
小売業	<p>組合員の状況は、食料品店は大型店との競争で引き続き大苦戦。家電店は水回りのリフォームも手掛け、景況感は上向いている。衣料品店は防寒衣料品の売れ行きが良好。消費税増税の対策として、レジやポイント発行機器の変更対策について2月に組合役員会を開催の予定。組合員外の状況は、土木建設業では、岩国基地関連の26年度900億円の工事が予定されている模様。大手小売業の競争が激化しており、週末の各商業施設とも大変混みあっている模様だが、商店街は閑古鳥で、経営者の高齢化もあいまって次善策も無い。自動車関連は、マツダ車の売れ行きが良く、工場の稼働率も上向きの模様。経営者としては各業種とも、仕入価格の上昇を販売価格へ転嫁出来ず、人件費の高騰もあり、消費税増税の4月以降に不安を持っている。求人については、人手不足感から募集しても応募者無い事業所もあり、時間給、アルバイト単価も上昇している。今後の政府景気対策に期待する。</p>	各種商品小売業 岩国市

	J R徳山駅の新築、駅ビル建替え、周南市役所の仮庁舎移転など、中心市街地の外部環境は徐々に変化が見られる。	各種商品小売業 周南市
	売上高は、前年同月比で+3%と微増となった。消費税増税前の駆け込み需要は、まだ見られない。	各種商品小売業 山口市
小売業	昨年末以降の天候不順ということもあり、衣料品が売上、客数共に前年をかなり下回る状況となっている。1月末には2階の釣具店が売上不振を理由に退店する厳しい状況。	各種商品小売業 長門市
	1月は客数も少なく、駐車場利用者も少なく、全体的に人通りも減少気味。	山口市
商店街	12月後半から1月にかけて、来街者の減少が目立つ。大型スーパー、ドラッグストアのバーゲン時には、相変わらず食料品関係で客が多い模様。	萩市
	企業の業績悪化に伴うリストラや、減収により低料金店へ消費者が流れ、更に、来店のサイクルが低下している。また、同業他社の開業による競争が激化しているうえに、従業員不足が売上を下げている。	美容業
サービス業	業況に変化は無いが、社会に勢いを感じており、安倍総理の頑張りやアベノミクスに期待している。	理容業
	ディーラーの新車販売が好調で、25年9月以降は前年を毎月上回っている。12月は登録車で約2割、軽自動車でも約3割の対前年比増となった。消費税増税前の駆け込み需要が発生していると考えられるが、一方で車検台数は減少しており、車検獲得のための価格競争の激化が心配される。	自動車整備業
	県内どの地域も満遍なく例年に比べて忙しい。	自動車整備業 情報サービス業
	状況は、変わらず、厳しい。IT人材派遣は、案件はあるが人材育成教育ができておらず、マッチした人材がいない。教育費が捻出できないという理由もある。IT業界が盛り上がるためにも、ITを活用した成功事例をどんどん作る必要があると思うが、そのためにまず、利用者の意識・スキルアップがどうしても必要になる。このあたりが新しいビジネスのヒントかもしれない。	
	反日の影響で減少していた、中国本土（山東省）・香港・台湾からの観光客が戻りつつあり、団体行動が多いが、個人客も増えている。日本を嫌いという雰囲気はなく、買い物が大好きで、時間を忘れる程であり、特に、みかんが良く売れる。ただし、山口県を知っているから来たのではなく、旅行会社の勧めで決定している模様である。国内は、関西方面からの観光客が、まだ、戻っていない。12月・1月の売上は最悪と言っている施設が多く、宴会も芳しくなく、宿泊も平日の動きがない状況。消費税対策は、	旅館業 下関市

	<p>宿泊代は外税。売店は31日から1日にスムーズに移行する用意・準備が必要となってくる。アベノミクス効果や、国内需要が増えるようなニュースを待っている。</p>	
	<p>売上高は前年同月比21%の増加。入浴者数も24%の増となった。日帰り入浴のツアー客の増加が要因と思われる。水道光熱費等の負担増は変わらず続いている。入浴施設の利用は増加しているが、組合員の宿泊施設の利用は伸び悩んでいる。</p>	<p>旅館業 長門市</p>
	<p>萩、美祢地区では好転の兆しが見えない。宇部、小野田地区では、兆しはあるものの、直接的な影響は、いまだ感じられない。岩国、周南、防府地区は、売上、客単価とも、上昇しつつある。小郡、山口地区は、変わらずといった状況。総じて、上昇機運にあるものの、地区毎の景況には、大きな差がある。また、業績に上向きが感じられる地区においてもまだまだ、不安定要因を抱えたままで、今後の予測はつかない。</p>	<p>飲食業</p>
	<p>山口県の屋外広告物条例の一部が改正されることになり、タウンミーティングを2月28日に防府市で開催する予定。山口県は全国的には最後の登録制導入となるが、依頼者側にも屋外広告業のあり方を知ってもらい、屋外広告物に関しての有資格者をフルに活用できるように周知していきたい。</p>	<p>屋外広告業</p>
	<p>中電への工事申請は12月216件（当支部分181件）、前年同月238件（同206件）。太陽光発電への申請30件、オール電化申請44件（前年は太陽光39件、オール電化18件）。LED街路灯への切替・新設申請は25件（前年38件）であった。</p>	<p>電気工事業</p>
建設業	<p>職人不足が一段深刻になった為、元請の基本工程が遅れ、すべての職種に影響が出てきつつある。</p>	<p>左官業</p>
	<p>本年度の公共事業の発注は一段落している状況である。発注者側の理由により、受注後の着工が遅れている工事が多くなった。一戸建ての住宅の発注は引き続き増加傾向にある。</p>	<p>土木工事業 柳井市</p>
	<p>職人の高齢化やこれまでの建設業の不況に伴う職人不足となっている。下松市の工事は発注単価が安く、</p>	<p>土木工事業 下松市</p>

	建設業者も請負し難い状況。	
	1月は公共工事の受注ゼロとなった。今までに受注していた仕事をこなしている。	土木工事業 周南市
	1月の受注高は、対前年同月比で234%。今年度の累計としては、対前年比で172%となっている。	土木工事業 萩市
	公共工事の公告はあるが、優先される災害復旧工事等に人員をとられ、地元の下請け業者やガードマンがおらず受注できないという状況が続いている。2月末まで続く見込みである。 1月30日発表の「公共工事設計労務単価」7.1%の引き上げは、2月1日からの適用であるが、例年2月3月は受注済み案件をこなしている時期であるので、収益の好転は4月以降の新年度となる見込みである。	管工事業
	1月に入って車両不足が幾分和らいだように見えたが、中旬頃より一層の車両不足となった。鉄鋼素材が国内輸送の主体となっている。輸出は横ばい。収支はプラスマイナスゼロである。アベノミクスで景気は回復傾向にあると言われているが、中小輸送業者にとっては運賃が据え置きであるのにもかかわらず、燃料代が高止まっており、経営を圧迫している。油関係は2.2円の値上げ。	一般貨物自動車運送業 下松市
運輸業	輸送稼働は今月も前年比で十数パーセント程度伸びており、来期も若干の伸びが予想される。しかしながら燃料価格も上昇基調にあり、更に乗務員の高齢化及び乗務員不足が問題化しており、労働条件の向上が求められている。	一般貨物自動車運送業 防府市
	年始の繁忙期は過ぎたものの、依然として車両不足が続いており、そこそこ良い条件で取引が行われている。荷物が多いということもあるが、近年、運送業界全体がスリム化してきたことも影響していると思われる。	一般貨物自動車運送業 宇部市
	E T C取扱量は12月の稼働率が上昇し、組合の手数料収入も約5%増加。1月は天候の悪化で東京方面の運送が大変であったが、無事故、安全運転が第一として運行管理をしている。新聞では景気上昇とあるが、運送業界は、仕事量が少なく運賃も上がらず燃料高となっており、業況は良くない。	一般貨物自動車運送業 下関市
	タクシーチケットの取扱い金額は、前年比▲4.4%（平成25年12月1日～平成26年1月20日分）12月1日～31日分は▲3.4%、1月1日～20日分は▲6.9%。昨年12月に減少幅が少なくなったように思われたが、再び減少幅が拡大し、アベノミクス効果は、まったく感じられない。地域別では、防府・下松は前年より若干増加、周南は若干	一般旅客自動車運送業

	<p>減少、光市の地区は大幅に減少しており、事業者も、乗務員も非常に厳しい状況が続いている。燃料のLPGについては、CP（通告価格）が、前月分より大高騰したため、1月のタクシー会社の燃料購入単価は先月に続き+13%上昇、前年1月分に比べ+18%と大幅に上昇しており、燃料価格の上昇は、価格転嫁の難しいタクシー会社の経営を苦しめている。</p>	
	<p>売上高の微増がある組合員と、減少している組合員があり、小野田港全体では、売上高等ほぼ横ばいと言ってよい状態。</p>	<p>港湾運送業</p>